

Let's try ~さあ ふみだそう 中央っ子~

中央小教頭 鈴木統久

運動会

前日と比べ急に肌寒くなった10月21日(火)運動会を実施しました。子どもたちも寒そうでしたが、演技中は力一杯全身を動かし、保護者・地域の皆様の温かい拍手で包まれた日となりました。

3・4年生の『グレイテスト“中央”ソーラン』は、背中に自分の漢字を背負った法被で、漁師のように力強くかっこいい姿の「よさこいソーラン」を踊りました。1・2年生の『Happinessの嵐をまきおこせ』は、懐かしい嵐の「Happiness」に合わせて踊り、全校の元気のよい「イエーイエー」が運動場いっぱいに響き渡りました。最後の5・6年生の『中央小応援歌Beautiful あきらめずに進もう』は、ゆずの「beautiful」とMrs.GREEN APPLEの「StaRt」に合わせて、フラッグとリズムダンスの花が開きました。また各学年の白熱した徒競走とリレー、大歓声の全校での大玉送りで半日の日程を終えました。

3年目の地域学校協働活動は、支援員さんをコーディネーターとして、絵本の読み聞かせや家庭科のミシンサポート、野菜の育成支援など、地域のマンパワーを取り入れさせていただき、学校を活性化しています。校訓「あかるくかしこく たくましく」を具現化できるよう、今後も本校の教育活動にご理解とご協力をお願いします。



コスモスの色の淡きを集め活け
夕日受け明るき庭や石蕗の花
香を飛ばすここに咲けりと金木犀
雲乱れ富士の樹海の秋深む
秋祭り幟おこしの勇肌
読みきかす百羽の鶴や秋うらら

か智よ子寿々代香魚子かつ子

源氏句会



心を一つに！必笑蒲南！

蒲南小教頭 尾崎江美子

運動会

今年は、10月に入ってからも暑い日が続きました。そんな中、子どもたちは毎日元気いっぱい運動会の練習に取り組みました。また、雨で運動場が使えない日も多くありましたので、一回一回の練習に集中しました。今年の児童会の運動会スローガンは「心を一つに！必笑蒲南！」。赤組も白組もみんなで心を一つに力を合わせてがんばりました。赤、白最後まで勝負の行方がわからず接戦でした。また、PTA種目「綱引き」が復活し、保護者の方々の本気な姿に応援にも力が入りました。みんなの笑顔があふれる運動会になりました。

多くの皆様にご観覧いただきありがとうございました。

①「きみにきめた！
いっしょに未来へジャンプ！」(低学年)

1・2年生、123人が「ポケダンス」「Will」に合わせて、ポンポンをふりながら、速いテンポに合わせて元気いっぱいに踊りました。一緒に未来へジャンプできるように、体を大きくつかって踊る1・2年生のかわいいダンスに観客も自然と笑顔になりました。

②「ソーラン節
～届け！8つの光のハーモニー～」(中学年)

3年生学年目標「ハーモニー」と4年生学年目標「7つの光」をあわせた「8つの光のハーモニー」をテーマにソーラン節で表現しました。子どもたちの真剣なまなざし、グラウンドに響く大きな声と力強い動きで迫力のある演技を披露しました。

③「一致団結！
～126人の心を一つに～」(高学年)

蒲南小運動会のフィナーレを飾る高学年の表現。今年の演目は、集団行動、一人技、組体操、ウェーブです。126人が息を合わせ、心を合わせ、統一された美しい演技を披露しました。本番は練習の成果を出すことができ最高の演技になりました。



子どもの育ちにつながる保育～運動会編～

中部保育園 園長 横井 充枝

夏が終わり、園庭で元気に走ったり踊ったりしている子どもたちに、ある日手紙が届きました。はじめは誰からきた手紙なのかわからなかつたのですが、次第に手紙の差出人の名前は“フローラ”だとわかりました。フローラは、夏に保育園で育てていた虫たちの仲間で、虫の世界の妖精でした。フローラは、子ども達の様子をいつも見ていた、励ましたり褒めたりしてくれる存在でした。そして、運動会に向けてかっこよく走ったり、素敵に踊ったりしている子どもたちの様子を見て、より楽しむためのアイテムをプレゼントしてくれました。運動会本番は、フローラからもらった太鼓のバチを使って演奏したり、ポンポンをつけて踊ったりし、楽しい運動会となりました。

このように、子どもたちは目には見えないフローラとのやりとりを通して空想の世界に入り込み、運動会まで、より一層楽しんだり力を發揮したりすることができました。保育士が、友達と一緒に運動会に向けての取り組みを楽しんでほしい、意欲的に活動に参加してほしいという願いを持って保育の展開を工夫することで、本番までの取り組みが更に楽しいものとなりました。本番で自分の力を出すことも大切ですが、そのためには、それまでにどんな経験をし、どのような思いを味わってきたかという過程が大切になってきます。保育園では、子どもの育ちや発達をおさえ、次のステップへと成長するためにどのような経験を積んでいくか良いのかを考えて保育を展開しています。

朝明くる川の辺はやも秋草の穂群たちをり空気さやけし
亡き母の部屋はいつしか物を置く場所となりたり遺影もありて
病あがりの夫は歩行器ギクシャクと金木犀の香の立つ朝に
飲みさしの湯呑に落つるひとつ蚊のかかる横死を憐れみもせず
水溜まり避けたはずなのにじわじわと足元冷やし秋の始まりか
雜踏へ連れ来しは誰ぞやや小さき犬にわが足つまづきかけぬ
わが庭に金木犀のかほる午後いとこに会ふは十年ぶりか
恥骨折りリハビリ頑張る母百歳生きることへの意欲を感じ
餅投げに友も子供も奪い合いなりふり構わぬ老若男女

文協短歌教室詠草



裏庭に剪定怠たりし木々繁りことさら暑き夏逝かんとす
目のかすみ力入らねど足運ぶ行く道親し柿のあからむ
宵宮へ向かふ祭りの山車が見ゆ吊る提灯小雨に濡れて
雨催ひの本宮の湯混み合ひて露天に響く唄らのこゑ

中村 伊藤 橋本満寿代 仲村弥枝子 小林 あさ 石田 菜美代 加藤英美代 菅沼 志賀
達 伸 伸 好恵 清助



運動会を頑張った子ども達に、フローラからプレゼントが届きました。

岩瀬 大武 智子 和子
岩瀬 大武 智子 和子

夏日歌会詠草